

袖ヶ浦市郷土博物館友の会・会報

友の会だより 第54号

発行 友の会事務局

袖ヶ浦市下新田 1133 番地

郷土博物館友の会

TEL:0438-63-0811

FAX:0438-63-3693

発行日:令和5年12月26日

第3回 もっとしいたい講座開催

「しいのもりを歩く―みて・まなぶ
草木と里山―」 R5年11月25日(土)

第3回目となる『もっとしいたい講座』は植物シリーズの仕上げとして、地元の里山保全活動で成果を上げていく『椎の森自然環境保全緑地(しいのもり)』を取上げた。ガイドをお願いした『椎の森里山会』の方々を含め20数名が集まり開講、午前10時、2班に分かれて観察しながら歩き始めた。

しいのもりは広さ20ヘクタールの里山で、椎の森工業団地における自然や生物多様性の保全を目的に整備されました。コナラやスタジイなどの木々、トウキョウサンショウウオやモリアオガエルといった両生類や水生昆虫など様々な生き物が生息し、初夏の夜にはヘイケボタル、ゲンジボタルが飛び交うとのこと。

椎の森里山会の皆様が、観察路の整備・樹木の植栽等を行っており、又伐採した原木を利用してシイタケ栽培等



しいのもりにて 参加者全員

観察路では、ムラサキシキブの赤紫色の小さな果実が秋枯れの野山に目立ち、又つややかな赤い実と常緑の濃い緑のマンリョウがこの寒空に存在感一杯でした。樹齢2百年余りの大きなスタジイの巨木に圧倒された一方、ナラ枯れ病による被害で空洞化している樹木もあり、以前話聞いた南房総地区だけでなく当地にも被害が及んでいる事を実際に見ることが出来ました。

一巡して帰ってくると里山会員の方が熱いコーヒーと干し柿で迎えて頂き、みて・まなぶ里山体験は、楽しくもあり充実の時間でした。

自然と歴史の散策会 R5年12月14日(木)
『小平市ふれあい下水道館
& 国立天文台』

本年度第2回目の自然と歴史の散策会は、小平市のふれあい下水道館と三鷹市の国立天文台を訪ねました。

ひんやりとした日でしたが快晴。参加者25名元気にバスに乗り込み出発。午前11時



国立天文台にて 参加者全員

構内には天文台歴史館を始め多くの天文関連施設が並んでいた。できれば説明員の解説があればもっと天文台に親近感を抱けるのだからと思つて施設をあとにしました。

成を記念し開館したとの事。職員の方から下水道の役割や仕組み等を映像で説明があり又汚水をきれいにする生きた微生物をライブ映像で紹介。特に『クマムシ』に注目が集まりました。又地下25MのB5階で実際に稼働している下水道管の中に入り見学。水環境の大切さを学ぶに素晴らしい施設でした。次に訪れたのは、三鷹市の国立天文台です。

友の会各グループ活動報告

風の会

『槇の実特別支援
学校でミニ凧作り』

風の会メンバー、5名がクラブハウスに集まり、皆さんそろいの法被と黄色いキャップを被り、これから千葉県立槇の実特別支援学校へ向かうのです。今回は高校生16名の生徒さんに、自らミニ凧を作ってもらう企画です。

長机に2名ずつ座り、和紙に各人思い思いの絵を描いて頂きました。中には我々の発想にない絵を描く人も居ました。

機織りの会

「からむしから糸作り」

苧（からむし）から糸作りをしています。市内に分布しているイラクサ科の植物です。栽培されたこともあり、今では、農地近くで大型雑草としても見られます。茎からとれる繊維は強く美しく現在、上等の反

凧を天日で乾かし、糸付けは、風の会員が手分けして取付けました。2時間の間誰一人欠けることもなく全員完成しました。先生方も生徒さんが2時間集中して出来たことに感心しておられました。



（代表 蜂須賀健二 記）

物に使用されています。綿が普及した江戸時代までは、庶民の衣類の中心でした。古（いにしえ）に思いを致し、裂いて繫いで糸にします。目標の太さは、髪の毛！まだまだです。



苧（からむし）の葉

（会員 今井恵子 記）



盆栽愛好会の近況の活動としては、10月27日、29日に開催の秋季盆栽展です。もう恒例となりつつある旧進藤家住宅をお借りして行う、古民家と盆栽の風情が楽しい、他には例が数少ない展示会です。

盆栽愛好会

『春秋年2回
展示会開催』

今回は、秋の実ものの盆栽として代表的な柿の実をメインに野外にも柿の盆栽を飾りお客様をお迎えしました。来場して下さった方々は『とても素晴らしい展示会で感動しました』と喜んで下さいました。

私達盆栽愛好会は、さらに良い展示会を目指し向上心を持って活動していきたいと思っています。

春はまた新緑をみせる展示会を心がけ、楽しんでいただけるような飾りで皆様にご感動してもらえようようにしたいと思っています。

（代表 中村康司 記）

植物画葉月の会

『万葉植物園から身近な草花・野菜まで』

葉月の会では、各自持ち寄った植物を水彩画で描いています。今年前半のNHK朝のドラマ『らんまん』の主人公、牧野富太郎博士の描いた植物図に繋がるものです。

花や実の美しい時間は短いので、その美しさを絵に留めたいという気持ちで皆熱心に描いています。

描くために、よく見ると花の細かな構造が見えてきます。講師の瀧先生から適切な助言を頂いてさらに良い作品を目指しています。始めは、はがきサイズの小さな絵から少しずつ大きな絵に、時には描き切れなくて翌年の同じ季節にもう一度挑戦することもあります。

花や草木の好きな方、子ども時代に絵を描くのが好きだった人、テレビドラマを見てちょっとやってみたいと思う方も大歓迎です。毎月の第3土曜日が活動日です。いつでも参観と体験可能です。

（会員 渡辺和代 記）

なんでも有り会

『今年は、自然
観察会を中心に』

5月19日（金）長浦駅前の千葉県緑化推進委員会の森と蔵波小鳥の森をぶらり散策しました。地元の樹木と植生について体感しました。

11月2日（木）には、袖ヶ浦駅北口から浮戸川河口を目指して散策し、昔とかわらないサンザイボカラ池を眺めました。北口開発が発展し見事な住宅街になっているのに一同感嘆しました。博物館の関係者、市民学芸員の方々の熱意によって行われるミュージアム・フェスティバル、興味深い講演会勉強会等に感謝いたしますと共に、我々会員も今後参加させて頂きたいと思っております。

（会員 渡辺しず子 記）



只今散策中！

土器作りの会 『会員充実なり、 活動始動』

当会はR4年度末には会員がわずか3人になってしまいい、会の存続危機状態の中のスタートとなりました。

そこで会員募集に奔走したところ、お陰様でその後、徐々に会員が増え、今では9名(内体験入会会員3名)の会員が活動しています。

11月は土器の材料作りをし、12月は土器の成形と活動計画通り順調に進んでいます。そこで今回は、土器の材料作りについて紹介します。

1. 素材

土器の素材は次の3点です。地元産の素材に拘って収集します。①粘土は今回は川原井地区から掘ってきた粘土を使用。②砂 ③赤土を混ぜます。



皆で粘土を粉碎中

2. 粘土の粉碎等

粘土は固化していて硬いため煉瓦やコンクリートブロックなどの硬い台にのせ金槌などで粉碎し、ふるいにかけて粉状にします。

写真は、粘土の山を粉碎している所です。

(代表 矢野佳次 記)

仏像を学ぶ会

『延命寺の仏像を 拝観して』

今年10月に高谷にある新義真言宗の飯王山延命寺で仏像を鑑賞してきました。参道の階段を登ると仁王門では、阿形・阿吽の像が参拝者を迎えてくれていました。

ご住職に案内され、本堂で寺の歴史やご本尊についての説明では、当寺は、神亀元年(724年)僧・行基によって創建された古刹です。ご本尊の地藏菩薩立像は、木造・玉眼で右手に錫杖・左手に宝珠を持ち、悩む人々には救済の手を差し延べてくれる、やさしいお顔をされている。本堂にはその他に小振りのながら存在感がある大日如来坐像、不動明王立像などの仏像が祀られていた。



延命寺本堂

(代表 吉田保雄 記)

友の会事務局より

各グループ代表(理事)の方、イベントの会議出席・準備活動お疲れさまでした。

*ミュージアム・フェスティバル実行委員会 4/6,5/11,7/6 計3回

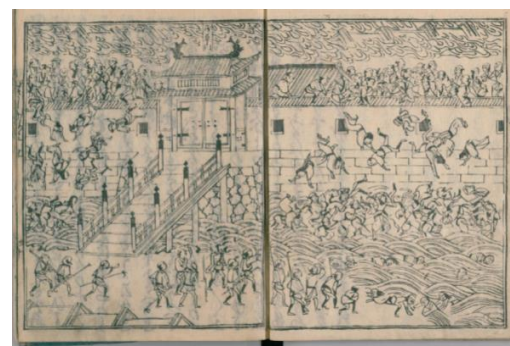
*同フェスティバル準備・本番・撤収 6/8~11(準備~本番),6/13(撤収)

*役員会(主催イベント内容検討等) 6/16,7/19,10/17 計3回

古文書いろはの会 『明暦の大火・ むさしあぶみ を読んで』

江戸時代・江戸は人口が密集しているだけに火災が多く、大火と呼ばれるものが90回以上あったとの事。

会では、この内一番大きな大火『明暦の大火』を克明に記録した浅井了意作『むさしあぶみ』を取上げ全編を読んだ。



『むさしあぶみ』2巻挿絵
(国会図書館デジタルコレクションから転載)

が川に折り重なるように死に、焼け死んだ様子の挿絵図です。

このように本文では、挿絵とともに明暦の大火を詳細に述べております。

明暦3年(1657年)正月18日から19日にかけての2日間で飛び火などで3回にわたり出火、折からの強風にあおられ燃え広がり、大名旗本屋敷をはじめ町屋400町が焼け、死者十一万人と云われる大惨事となった。特に悲惨だったのは、浅草御門の惨事だった。『小伝馬町牢屋敷にも火の手がせまり、囚人を解放したところ、これを脱走囚と勘違いをした役人が浅草御門を閉鎖したので、逃げ場を失った群衆二万三千人が焼死した』と伝えらる。

下の図は浅草御門が閉じられ逃げ場を失った大群衆

この大火の後、火災延焼防御する空間として火除け空地や広小路(道幅10間、約18m)などが設置された。これを読むにつけ、災害発生時の避難道筋や避難情報の伝達等については、昔も今も大問題であることが分かります。過日ハワイの大火災での道路上の黒焦げた車を思い出すのは、明暦の大火での荷車での避難で逃げ道は大渋滞、迫りくる炎、危険は江戸時代も今も変わらない。

(代表 今井久明 記)



令和5年10月7日(土)～12月17日(日)

開館時間 9:00～17:00 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日) 入館料 無料

袖ヶ浦市郷土博物館 本館県庁2階西玄関1133 TEL:076-651177 FAX:076-651363

企画展・開催

『袖ヶ浦の外来種』

R5年10月7日(土)～12月17日(日)

今回の企画展の担当でもあります袖ヶ浦市郷土博物館学芸員・水流(つる)拓馬副主査に開催の感想を聞きました。

『生態系を乱したり、農家を悩ませたりと何かと話題になる「外来種」ですが、袖ヶ浦でも、ごく身近な存在になっていることは、あまり知られていなかったのではないのでしょうか。この秋開催した「袖ヶ浦の外来種」では、そんな袖ヶ浦で見られる外来種について、種類や姿形、実際に生きた姿まで郷土の歴史にも触れながら紹介しました。



代表的な外来種・アメリカザリガニ

普段は博物館を訪れることが少ない親子連れを中心に多くの方が来館され、日々の生活から見えないう袖ヶ浦の外来種ワールドに驚き、考える姿がとて印象に残りました。又、展示の後半から実施した外来種クイズも多くの方に挑戦頂けました。外来種というテーマを通じて身近な自然の大切さを学んで頂けたなら、心から嬉しく思います。』と述べられています。

博物館より

お知らせ

*1月14日(日)

新春風揚げ大会
時間・午前10時～午後3時



【お問い合わせ先】
袖ヶ浦市郷土博物館 ☎(63)0811(月曜休館)

*2月25日(日)

重要無形民俗文化財
上総掘り講演会

『上総掘りを伝えるために』(仮)
時間・午前10時～午後4時

場所・長浦おかのうえ 図書館視聴覚室
※参加には事前のお申込が必要です。詳細については後日ご案内します。

袖ヶ浦公園での

『バードウォッチングのおさそい』

例年と比べて暖かいとはいえず、ようやく冬らしい陽気になってきました。寒い日は暖かい部屋でのんびり過ごしたい方も多いかと思いますが、少し気合を入れて袖ヶ浦公園にバードウォッチングに出かけてはいかがでしょうか！

昨年、博物館職員が確認しただけでも45種類の野鳥を見ることができましたが、日頃写真撮影に訪れている方のお話を伺うと、もともとたくさんの種類がいるようです。

皆様も、寒空の下でも生き生きと暮らす鳥たちの姿を見に行ってみませんか？

『こんな鳥がいた！』『この鳥は何だろう？』などの質問も大歓迎です。

(博物館副主査・水流拓馬記)

場所・袖ヶ浦海浜公園

(雨天の場合)

1月21日(日)に延期

名所旧跡など観光した折、地元ボランティアさんによるガイドのお世話になることがあります。それも実に親切丁寧な態度と控えめな説明に、いつも感心しております。

そこで、袖ヶ浦公園や当博物館へ市内外から来られる方に、周辺の文化財や景観をガイド等お世話できないかと考えております。

○会員からの提言
『市内外からの来園者へ博物館周辺文化財のガイドをしませんか』

例えば、先ず万葉植物園です。ここは奈良・春日大社万葉植物園と比べても決して負けていないすつきりした園地だと思います。次に鏡ヶ峰からの展望。近くの山野貝塚の縄文人もここから潮の干満を眺めたに違いない景観です。次に式内社飽富神社の東照宮や七福神も案内したい。次にすぐ近くの飯富寺の十一面千手観音。次に旧進藤家住宅等の静かな佇まい、そして博物館等を約2時間で周遊し袖ヶ浦市の文化財の一端を紹介する。

このような活動に、もし賛同して頂ける方がおられるならば、是非一緒にやりませんか。賛同の方お待ちしております。

提言は、古文書いろはの会の今井です。